

平成26年11月

各位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成26年11月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

さて、現在、東京国立博物館（上野）におきまして、『日本国宝展』が開催されています。ここでは、八戸が全国に誇る国宝・合掌土偶が展示されています。

合掌土偶は、縄文時代後期、紀元前2000～前1000年前のもので、ふだんは市埋蔵文化財センター是川縄文館に収蔵されていますが、今回都内に来ており、11月21日（金）～12月7日（日）の期間は、国宝土偶全5体が上野に勢ぞろいします。

土偶女子が急増中の土偶ブーム。皆さまも是非足を運んでいただき、時を超えた不思議なチカラに癒されてみませんか？



『日本国宝展』ホームページはこちら→ <http://kokuhou2014.jp/>

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸11月号 レポート

平成26年10月の八戸市内での出来事や、八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項目
1	八戸市への「ふるさと寄付金」過去最多の勢い
2	八戸市 中核市移行で初の専門職（獣医師、薬剤師）を募集
3	市庁内に「就労サポートコーナー八戸」開設 生活保護受給者の就労を支援

【産業】

No.	項目
4	ハワイで青森県産品フェア開催 八戸せんべい汁などPR
5	北日本造船フル稼働 特殊船に特化、エネルギー革命も追い風

【地域】

No.	項目
6	千葉幼稚園 羽仁もと子の言葉をかるたで紹介
7	中心街横丁のマスコットキャラ 「よっぼらいぼやし」 “増殖中”
8	八戸水産高 2年ぶりにサンマ缶詰製造実習
9	八工大と市民病院が共同開発 「移動型緊急手術室」試作車完成
10	みちのく潮風トレイル 歩く観光 定着へ手応え
11	今シーズン最後のホコデン ～ライフやダンスで大盛況～
12	「観光立国タウンミーティングin青森」開催
13	中心街に「八戸ニューポート」開設 ～ものづくりの活動拠点に～
14	八戸赤十字病院に「看護外来」開設

【文化・スポーツ】

No.	項目
15	全国防具付空手道選手権 「修道会」の吉田聖さんが県勢初の優勝！
16	一王寺遺跡で貝塚確認 盛り土遺構も発見
17	全国とくキャラ総選挙2014 「いのるん」堂々連覇！
18	「縄文なべまつり」開催 せんべい汁2500食を巨大な鍋で調理
19	八戸市景観賞 まちなみ空間部門で「対泉院」「鮫角灯台」が受賞
20	築地市場まつり「鍋グランプリ」に「はっち魚食ガールズ」参戦！
21	大小彩り豊か はちのへ菊まつり開催

【県内】

No.	項目
22	県内公立学校のいじめ件数 950件
23	「青森暮らしサポートセンター」へ移住相談27件
24	津波浸水想定 of 公立校 八戸市で24校
25	青森県のがん発症率 男女とも全国平均下回る


【 行政 】

No.	レポート
1	<p>八戸市への「ふるさと寄付金」 過去最多の勢い</p> <p>「ふるさと納税」による八戸市への寄付が、好調なペースで推移している。2014年度(8月末現在)の寄附額は2234万円で、過去最多だった2013年度を上回る勢いである。市では、一定額以上の寄付者に贈っている特産品や、使い道を細かく指定できる制度が人気の要因とみている。9月からはクレジットカードの使用も可能となり、さらなる増加に期待を込める。</p>
2	<p>八戸市 中核市移行で初の専門職(獣医師、薬剤師)を募集</p> <p>八戸市は、中核市移行に伴う保健所設置に必要な専門職として、2015年4月1日採用の獣医師と薬剤師を募集する。民間との給与格差や団塊世代の大量退職などで、全国的な獲得競争が起きているのが現状であるため、市は、受験資格の上限を異例の50歳としている。採用予定は各2人。いずれも1964年(昭和39年)4月2日以降に生まれ、獣医師免許や薬剤師免許を持っていることが条件。11月21日まで応募を受け付けている。</p>
3	<p>市庁内に「就労サポートコーナー八戸」開設 生活保護受給者の就労を支援</p> <p>八戸市と厚生労働省青森労働局は11月4日から、生活保護受給者や生活困窮者の就労を支援する専用相談窓口「就労サポートコーナー八戸」を市庁内に開設した。受給の申請や就労に関する相談をまとめて行える「ワンストップ型」の体制で早期に支援し、生活保護受給者らの自立を促進したいとしている。ハローワークの相談員2人が常駐、生活保護や児童扶養手当、住宅支援給付の受給者の相談に乗り、仕事の紹介などを行う。市庁舎内にハローワークの常設窓口を設置するのは県内で初めてとなる。</p>

【 産業 】

No.	レポート
4	<p>ハワイで青森県産品フェア開催 八戸せんべい汁などPR</p> <p>ハワイのスーパーで10月7～12日、青森県産品フェアが開催された。初日は八戸せんべい汁研究所など県内のご当地グルメ4団体が、自慢の料理を振る舞い、青森の味をアピールした。フェアは昨年に続き2回目。4団体に加え、八戸市など県内の食品関連企業15社が参加し、2店舗で八戸せんべい汁やいちご煮、十和田バラ焼きなどを売り込んだ。</p>
5	<p>北日本造船フル稼働 特殊船に特化、エネルギー革命も追い風</p> <p>北日本造船(八戸市)の受注が好調となっている。契約は3年先の2017年の引渡し分まで埋まり、2018年の引合いが既に始まっている。建造する船の種類を見ると、主力は「LPG(液化石油ガス)タンカー」から化学物質を運ぶ「ケミカルタンカー」に移行。世界的に注目を集める、シェールガスなどの新たなエネルギー需要を見越した動きとみられ、ケミカルタンカー建造に関しては業界トップの技術力という同社の強みが、受注獲得に繋がっている。</p>

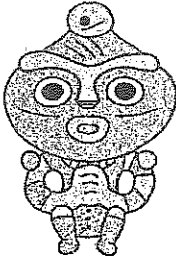
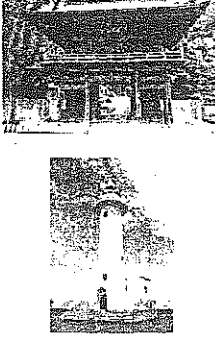


【 地域 】

No.	レポート
6	<p>千葉幼稚園 羽仁もと子の言葉をかきたて紹介</p> <p>八戸市出身の思想家・教育者で、日本初の女性新聞記者となった羽仁もと子(1873～1957年)の思想を見つめ直そうと、八戸市の千葉幼稚園は創立60周年を記念し、羽仁の言葉を紹介する「いろはかるた」を作製した。同幼稚園はこれまでも羽仁の言葉を園内の生活に取り入れており、岡本潤子副園長は「園児が言葉を声に出し、生活の中に生かすことが大切」と話す。かるたは羽仁の著書をベースに作製されており、約90年前に発行された羽仁の著書の言葉が、時を超えて子どもたちに受け継がれる。</p>
7	<p>中心街横丁のマスコットキャラ 「よっぱらいほやし」 “増殖中”</p> <p>八戸市中心街の横丁で、マスコットキャラクター「よっぱらいほやし」の木像が“増殖中”である。ほやしは、横丁のマスコットキャラクターとして、八戸市出身の美術家の竹本真紀さんの考案により2010年に誕生。海の「ホヤ」と、酔っぱらいの「おやし」をミックスして命名。青い森カービングクラブの菅岡仁さんが、1本の丸太をチェーンソーで削って制作している。1体目は昨年、「たぬき小路」にお目見え。今年に入り、「ムーンプラザ」1階に親子2体が相次いで登場し、9月末にはこれまでで最も大きい高さ約2メートルの木像が「ハーモニカ横丁」に設置された。酔っぱらったおじさんがモチーフという一風変わったキャラクターだが、「かわいらしい」と一部で話題になっている。</p> 
8	<p>八戸水産高 2年ぶりにサンマ缶詰製造実習</p> <p>青森県立八戸水産高の水産食品科1～3年生約100人が10月7、8日の2日間、校内の実習場でサンマの味付け缶詰の製造実習に臨んだ。昨年度は、しけなどの影響で原料のサンマを仕入れられず、実習は2年ぶり。今回は、岩手県宮古市から仕入れたサンマ約1.6トンを使用。2日間で計約6千缶を製造した。生徒が真心込めて作った缶詰は、同校が10月18、19日に開催した「水産デー」で来場者に販売された。</p>
9	<p>八工大と市民病院が共同開発 「移動型緊急手術室」 試作車完成</p> <p>八戸工業大と八戸市立市民病院が共同で開発を進める「移動型緊急手術室」で、実用化に向けた試作車が完成した。緊急を要する心肺停止の傷病者に対し、人工心肺補助装置などを使用した迅速な処置が可能で、医療過疎地や災害発生時での活用を想定する。全国初の取り組みで、搭載する機器や運用方法などを検証した上で、本年度内にも現場に投入して試験を開始する予定。</p>
10	<p>みちのく潮風トレイル 歩く観光 定着へ手応え</p> <p>将来的に八戸市から福島県相馬市までの太平洋岸約700キロを結ぶ自然歩道「みちのく潮風トレイル」で先行開通した八戸ー久慈間は、今春の本格利用開始から半年が経過した。本格的なトレッキング装備で歩く人が現れるなど地元観光関係者からは「歩く観光」の定着に向けた手応えが聞かれ、利用者の受入れ態勢構築も進む。日本旅行業協会の広報室によると、旅行というかつては『観光』だったが、今は『体験』が重要。健康志向もあり、トレイルへの関心は高いとしつつ、メディアへの露出頻度を増やすなど、さらなる“仕掛け”の必要性を強調している。</p>

11	<p>今シーズン最後のホコテン ～ライブやダンスで大盛況～</p> <p>中心街が歩行者天国となる今年最後の「はちのへホコテン」が10月26日に十三日町から三日町にかけての目抜き通りとヤグラ横町で行われた。路上ではダンスのパフォーマンスや音楽ライブ、菊人形の制作体験、ヴァンラーレ八戸の選手とプレーできるサッカー体験などが催され、飲食や物販の出店も並んだ。この日は、ハロウィーンツアーも開かれ、魔女やアニメのキャラクターなどの衣装に身を包んだ子どもたちが街なかを練り歩くなど、若者や家族連れなどが今シーズン最後のホコテンを楽しんだ。</p>
12	<p>「観光立国タウンミーティングin青森」開催</p> <p>日本観光振興協会が主催する「観光立国タウンミーティングin青森」が10月28日に八戸グランドホテルで開かれた。観光関係者約200人が東京五輪をにらんだ外国人旅行者の取り込みや、三陸復興国立公園の魅力を生かした観光戦略を探った。基調講演に立ったJTBの加藤誠観光戦略部長は、観光客の訪問先が欧米中心からアジアに移行しつつあると解説し、地方でも外国人の受け入れ態勢を整備する必要性を指摘した。</p>
13	<p>中心街に「八戸ニューポート」開設 ～ものづくりの活動拠点に～</p> <p>中心街活性化に向け、八戸市は11月1日、十三日町にある空き店舗を借り上げ、ものづくりに関わる人の活動拠点「八戸ニューポート」としてオープンさせた。シェアオフィスとして入居者を募集、セミナーやイベントも開き、新たな企画やビジネスが生まれる交流拠点にしたいとしている。オフィスは4区画で、クラフトやデザイン、アパレルなどの創造産業を想定。家賃は月額1万3800円(税込み)で、事業が終了する2015年度末まで使用可能。賃料がネックで事務所を構えていない人や、副業を始めたい人も対象となる。</p>
14	<p>八戸赤十字病院に「看護外来」開設</p> <p>八戸赤十字病院は、看護師が専門性を生かし、通常の診療では手の届きにくい分野を受け持つ「看護外来」を11月4日に開設する。がん、糖尿病、脳卒中やストーマ(人工肛門)など7分野で専門的な知識・技術を持つ看護師9人が対応。不安を抱える患者・家族の相談に応じて助言や体のケアを行い、地域で安心して療養生活できるように支援する。</p>

【文化・スポーツ】

No.	レポート
15	<p>全国防具付空手道選手権 「修道会」の吉田聖さんが県勢初の優勝！</p> <p>八戸市の空手道場「修道会」の吉田聖(たかし)さんが、9月27日に東京武道館で開かれた第52回全国防具付空手道選手権大会の男子個人一般組手で、青森県勢初の優勝を果たした。準Vだった第46回大会以来の念願がかない、吉田さんは「練習後も後輩に練習を手伝ってもらい、感謝している」と喜びをかみしめた。また、男子団体組手で同会所属の青森Aチームと、女子個人一般組手の大坂綾香さんが準優勝した。</p>
16	<p>一王寺遺跡で貝塚確認 盛り土遺構も発見</p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館が8月から進めていた「一王寺(1)遺跡」の発掘調査で、文献で存在が記録されていた貝塚の存在が確認された。一王寺は約6千～4千年前の縄文時代前期・中期の遺跡で、国史跡「是川石器時代遺跡」の一つ。貝塚からは、カキ、アサリ、シジミ、コタマガイ、ウニのとげ、サケやイルカの骨などが出土。シカの角で作ったもりなどの骨格器も発見された。また貝塚の上には土を盛った「盛り土遺構」も見つかり、学芸員によると、遺跡南東側で盛り土が見つかったのは初めてで、捨てたものを送る祭祀的な場だったとみている。</p>

17	<p>全国どぐキャラ総選挙2014 「いのるん」堂々連覇!</p> <p>土偶をモチーフにしたご当地キャラクターの人気調査「全国どぐキャラ総選挙2014」が行われた。前回1位に輝いた八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館の「いのるん」が1206票で、2年連続の優勝を達成した。この人気調査は、「『土偶の日』運営委員会」が、語呂合わせで10月9日を「土偶の日」として普及させようと昨年から企画。今回は計22のキャラが“出馬”し、インターネット上で投票を受け付けた。初参戦だった三沢市歴史民俗資料館の「のっくちゃん」も健闘し、1010票と僅差で2位となった。</p>	
18	<p>「縄文なべまつり」開催 せんべい汁2500食を巨大な鍋で調理</p> <p>毎年恒例の「縄文なべまつり」が10月13日に八戸公園で開かれた。直径3メートル、深さ0.8メートル、重さ3.6トンの巨大な鍋で、八戸パークホテルの料理人がせんべい汁2500食を調理。せんべい汁の具材には、南部せんべい6千枚、鶏肉、キャベツそれぞれ重さ100キロ分のほか、ニンジンやキノコ、高野豆腐などが使われた。市内外から訪れた多くの家族連れらは、豪快に調理された熱々の一杯に舌鼓をうっていた。</p>	
19	<p>八戸市景観賞 まちなみ空間部門で「対泉院」「鮫角灯台」が受賞</p> <p>第26回市景観賞を八戸市が発表した。新井田の寺院「対泉院」と、鮫町の「鮫角灯台」の2件が共にまちなみ空間部門で受賞。対泉院には市指定文化財の2階建ての山門のほか、池には「古代ハス」として知られる大賀ハスが咲く。境内に足を踏み入ると静寂に包まれた空間が広がり、豊かな癒しの時を与えてくれる、と評価された。鮫角灯台は、灯台の白と、海と空の青とのコントラストが美しく、建築物としても優れ、地域のシンボルとしてふさわしい、として選ばれた。景観づくり部門の該当団体はなかった。</p>	
20	<p>築地市場まつり「鍋グランプリ」に「はっち魚食ガールズ」参戦!</p> <p>女子目線で魚食文化を発信する八戸市のグループ「はっち魚食ガールズ」が、11月2日に東京・築地で初開催された「鍋グランプリ」に出場した。メンバーの県立八戸水産高生が考案したのはイカとサバのつみれにナス、ズッキーニ、キャベツなどの野菜をたっぷり加えたトマトベースの鍋料理。ニンニクで炒めた切り身も載せ、イタリアン風に仕上げた。残念ながら入賞は果たせなかったが、準備した600食はすべて完売した。</p>	
21	<p>大小彩り豊か はちのへ菊まつり開催</p> <p>八戸市の花でもある菊の美しさを楽しむ「第43回はちのへ菊まつり」が、市庁前市民広場で10月29日から11月3日まで開催された。愛好家で作る八戸菊花会の会員や市内の児童らが丹精込めて育てた大小790株を展示。八戸藩立藩350年を記念した菊人形なども訪れた市民の目を引いていた。</p>	

【 県 内 】

No.	レポート
22	<p>県内公立学校のいじめ件数 950件</p> <p>県教委が2013年度の問題行動調査について、公立学校の結果を公表した。小、中、高校、特別支援学校で把握したいじめの件数は950件で、前年度から178件減った。学校別では、小学校344件(前年度比69件減)、中学校544件(同84件減)、高校59件(同25件減)、特別支援学校3件(同増減なし)だった。県教委は「いじめは許さないという指導が子どもたちに浸透してきたことや、学校で繰り返しいじめについてのアンケートを行っていることが抑止効果につながっている」と分析している。</p>
23	<p>「青森暮らしサポートセンター」へ移住相談27件</p> <p>青森県への移住を促進するため、県と県内40市町村が6月に東京・有楽町に開設した「青森暮らしサポートセンター」への相談件数がこれまでに27件に上り、うち2件で移住が成立した。相談者は30～40代が多く、県や市町村は、就職支援情報を積極的に発信するなど、子育て世代の移住に一層力を入れる方針である。</p>
24	<p>津波浸水想定 of 公立校 八戸市で24校</p> <p>大地震に伴う津波で、浸水が想定される県内の公立学校は39校あることが分かった。県南地域では八戸市24校、三沢市3校、むつ市1校、階上町2校、おいらせ町3校の計33校。そのうち、「従来の施設で安全性を確保できる」と回答したのは、八戸市やおいらせ町などの小中学校計19校。安全対策を「検討中」としている学校もあり、文部科学省は来年度予算の概算要求に盛り込んだ、校舎の高台移転への補助制度などを活用して、早期の対応を促す考えである。</p>
25	<p>青森県のがん発症率 男女とも全国平均下回る</p> <p>国の2010年人口動態特殊調査で、青森県の10万人当たりのがん死亡率が男女ともに全国最下位だったが、発症率は全国平均を下回ったことが、弘前大大学院医学研究科の「地域がん疫学講座」の研究で分かった。死亡率が高い理由について、同講座は患者が医療機関で受診した際、既のがんが進行したり、転移が確認されたりする事例が多いと分析される。医療機関の受診を促すことで、がんの早期発見につなげたいとしている。</p>

青森県内各地における 10万人当たりのがんの 発症率と死亡率	男性		女性	
	発症率	死亡率	発症率	死亡率
八戸	417.4	294.0	290.5	126.1
上三	402.3	249.3	266.9	102.3
下北	536.9	311.9	381.1	148.2
舊青森	464.2	320.9	318.2	136.9
津軽	501.5	301.6	335.8	123.8
西北五	420.1	282.4	260.1	123.3
青森県	430.6	215.9	292.3	105.6
全国平均	433.0	182.4	292.6	92.2

(弘前大大学院地域がん疫学講座提供)